

会議録

会議の名称		第3回子どもの居場所部会					
事務局		子ども家庭部子育て支援課					
開催日時		令和3年3月18日（木） 18時から19時30分まで					
開催場所		小金井市役所第二庁舎8階 801会議室					
出席者	委員	部会長	萬羽 郁子	委員			
		職務代理	水津 由紀	委員			
		部会員	北脇 理恵	委員	古源 美紀	委員	
			鈴木 隆行	委員	谷村 保宣	委員	
			村上 洋介	委員			
	事務局	子育て支援課長	富田 絵実				
		子育て支援係長	福井 英雄				
		子育て支援係	山下 真優				
		児童青少年課長	鈴木 剛				
		児童青少年係長	前田 裕女				
傍聴の可否		可 ・ 一部不可 ・ 不可					
傍聴者数		1人					
会議次第		1 開会 2 子どもの居場所について 3 閉会					
発言内容・ 発言者名（主な発言要旨）		別紙のとおり					
提出資料		1 資料9 子どもの居場所部会開催スケジュール 2 資料10 子どもの居場所部会報告書の概要（案） 3 資料11 第2回子どもの居場所部会における審議結果					

第3回子どもの居場所部会 会議録

令和3年3月18日

- 萬羽部会長 それでは、ただいまから、第3回子どもの居場所部会を開催いたします。
- 本日は、鈴木恭子委員から欠席の連絡をいただいておりますので御報告いたします。
- また、緊急事態宣言中ということもあり、本日は19時30分をめぐりに会議を終了したいと考えておりますので、御協力のほどお願いいたします。
- 次第の(2)子どもの居場所についてを行います。前回からかなり空いてしまいましたが、前回は、「子どもの権利の視点から見た子どもの居場所」について審議した後、「子どもの居場所の理念についてのキーワード出し」を行いました。
- 本日もできる限り、皆様のお考えをお伺いしながら進めたいと思いますので、ワークショップ形式により進行させていただきます。
- ワークショップの内容としては、「子どもの居場所の理念についてのキーワード出し」の続きになります。前回会議終了後、キーワードについてもう少し考えてみたいとの御意見がありましたので、理念のキーワードについて引き続き審議するとともに、そのキーワードを説明するコメントについても審議いただきたいと思います。
- なお、本日も2つのグループに分かれて審議を行いますが、各グループからお出しいただいたキーワード等については、最終的に部会の意見としてまとめる必要があります。本日、お時間的に可能であれば、それぞれのグループからお出しいただいたキーワード等をまとめる作業も行いたいと思います。
- ワークショップの詳細はまた後ほど御説明いたしますが、ワークショップを始めるに当たり、事務局から資料を提出いただいておりますので、事務局から説明をお願いします。
- 子育て支援係長 4か月ぶりの会議ということもありますので、これまでの振り返りを含めて、スケジュールについて御説明差し上げたいと思います。資料9を御覧ください。
- まず、事前勉強会を昨年10月8日に開催し、居場所の全体イメージのほか、小金井市で実施している居場所に係る事業に関して御説明差し上げました。
- 第1回部会が10月21日、ここでは、「理想と考える子どもの居場所のあり方」について、ワークショップにより御審議いただき、50項目ぐらい頭出ししました。
- 第2回部会が11月18日、ここでは、前半部分で、「子どもの権利の視点から見た

子どもの居場所」ということで、前の会議で挙げていただいた50項目について、子どもの権利の視点から見返し、追加するものがあれば追加いただくということで御審議いただきました。

後半部分では、「子どもの居場所の理念のキーワード」ということで、挙げていただいた50項目に関してグループ分けの上、キーワード付けをしていただきました。その内容が資料11になります。

資料11の1ページ目が、Aグループと付けさせていただきましたが、萬羽部会長のグループの方で、こちらのグループでは、各項目の相関関係に関してかなり議論されていたかと思います。相関関係を無理やり表形式にしたので分かりづらいところがあるかと思いますが、このように記載させていただきました。相関関係に関してはかなり審議したが、キーワード付けに関してはもう少し議論したいという雰囲気であったかと思っています。

裏面に行きまして、Bグループ、水津職務代理のグループは、キーワード付けについてかなり審議し、子ども目線のキーワードもあったほうが面白いのではということで挙げていただきました。キーワードに関してはかなり議論したけれど、その表現が妥当なのか、もう少し詰めたいというところで、終わったかと思っています。

それでは、また資料9に戻ります。本日3月18日第3回の部会ということで、1月、2月は開催できませんでしたが、本日に関しては、「目指すべき姿」、理念の部分に関して前回の続きを行う。詳細に関しては、後ほど部会長からご説明があると思います。こちらの理念の部分に関しては、本日審議した後、4月の第4回部会、今のところ、4月21日を予定しています、その前半部分で終えていただくと、スケジュール的にありがたいと考えています。

それから第4回部会の後半部分で、「目指すべき姿」、理念を実現するための「施策提言」について、ご審議いただく。「施策提言」に関しては、第5回部会、5月開催予定ですが、そこまでご審議いただく。その結果を踏まえ、第6回部会、7月開催で報告書（案）にまとめていただく。それを、8月の子ども・子育て会議、本体会議に報告書として確定したものを提出いただくという流れで考えています。

あと、前回会議のときに、報告書の最終的なイメージに関する御質問がありましたので、資料10の子どもの居場所部会報告書の概要（案）をお出ししました。

報告書のイメージですが、1ページに、かがみ文をつけまして、萬羽部会長名、倉持

会長宛てで、鋭意審議した結果、このように報告させていただくというような内容をまず記載。2ページ以降に本文となります。

こちらの資料は、本文部分のイメージを記載しています。まず、1、子どもの居場所についてということで、居場所に関する全体的なリード文となりますが、子どもの権利保障に資するといった内容は入れたほうがよいと考えております。

2の目指すべき姿、これが現在審議している、一番ポイントとなる部分かと思いますが、まずは、リード文、数行程度後に、キーワード、章タイトルを書いて、それに対して数行程度の説明を書く。それを全部で5項目から6項目ぐらい挙げてはと思っております。現在、各グループで審議いただいているところですが、最終的には集約して5、6個にまとめていただければ。あまり数が多過ぎると内容が分散してしまうので、ある程度数を絞ったほうがいいのではないかと考えています。

具体的なイメージが、その下のイメージというところで、これは事務局の方で仮にということで作成したものですので、これからの審議でこれに引っ張られる必要は全くないと考えております。例えばということで記載しましたが、「2 目指すべき姿」、リード文として、「子ども自身の育つ権利を保障しながら、子どもたちがのびのびと自由に遊べ、仲間や異世代が気軽に集まり交流でき、安全で安心に過ごすことができるよう、次のような子どもの居場所の目指すべき姿を提案します」。(1)として、「子どものやりたい」を、Aグループの方で、こちらのキーワードが出ていたかと思います。それを使わせていただきました。「『子どものやりたい』を大切にする」。以下、説明文が結構長くなってしまいましたが、もう少し短くてもいいかなというのが(1)で、以下、(5)か(6)くらいまでであるとよいのではと考えております。

3の施策提言に関しましては、やはり、リード文、数行程度後に、キーワード及び説明文、数行。これを3項目ぐらい挙げていただければと。これまでの審議の中でも、財政支援の話であるとか、あと広報とか、スタッフに関するお話は出ているところですが、次回の後半とその次で審議いただければと思います。

最後、4のその他のところですが、今後審議すべき課題等何かあれば記載することになります。7月までの部会の中で、今後も議論したほうがよいということがあれば、それについて記載いただく。あと、次期の子ども・子育て会議の中でも、引き続き居場所部会を設置したほうがよいという御意見がもしありましたら、それも記載してよいのではと考えております。

事務局からは以上になります。

○萬羽部会長 ありがとうございます。そのほかの机上に配付されている資料については、御説明が……。

○子育て支援係長 谷村委員からいただいた学童に関するアンケート結果と、もう一つはネットワーク協議会関係なので水津委員のほうから御説明いただいたほうがよろしいですかね。

○水津職務代理 では、学童のほうを。

○谷村委員 学童のほう、学保連で、小金井9学童の協議会をやっているんですけど、9学童全体に対して、学童が終わって、今、学童は3年生までというのがメインで、3年生は卒所した後、いろいろな不安を抱えている方がいらっしやって、今年度は、学保連のほうで親御さん宛てにアンケートを行いました。その結果がこれになります。

アンケートの回答率というのが、なかなか高いところまではいかなかったんですが、傾向としては、いろいろと見ることができました。5ページ目、学童を卒所した後というので、不安なところで、やっぱり放課後の居場所というのが顕著に数字として出てきて、あと、学童自体、3年生でメインで終わってしまうんですけど、4年生、5年生とかも預かってほしいというような意見とかも結構見ることができました。なので、この会議でも、どこか頭の片隅に入れていただければなと。

○萬羽部会長 ありがとうございます。では、水津委員。

○水津職務代理 ネットワークの部分で、まず、「えにえに」のほうは、この間来、御説明していた子どもの居場所サイトが完成して、これがそのお知らせとなっております。

それとあと、もう一つ、本になっているのは、前にも御説明しました子育てメッセこがねいの9月27日にマロンホールでZoomを使ってやっていただいたものの報告集になっています。1日、午後の時間で、埼玉大の森本さんをお呼びして、居場所の定義の理論の話を聞いたものを、端的にですけれども、ポイントで一応まとめてありますので、お読みいただければなと思っています。よろしくお願いします。そんな感じです。

○萬羽部会長 ありがとうございます。では、ここまでに、事務局から審議スケジュールと最終的な報告書、あと、机上に配付されていた資料についてそれぞれご説明いただきましたが、このまま進めてよろしいでしょうか。ここまでのところで何か御質問とかありますか。

○水津職務代理 大丈夫です。

○萬羽部会長 それでは、この後、2つのグループに分かれて、ワークショップ形式で進めたいと思います。

まず、30分程度時間を取りますので、前回からかなり空いてしまいましたので、思い出しつつ、その中からキーワードを見つけるという作業を一旦30分程度行いたいと思います。そのときに、先ほど説明のありました資料11を参考にさせていただいて、理念のキーワードと、それを説明するコメントを考えていただけたらと思います。

机上に、A3の紙とマジックが置いてあるかと思いますので、ある程度まとまりましたら、キーワードごとに、こちらのA3の紙にまとめてください。なので、大きなキーワードをまず書いていただいて、それに対する説明、あまり細かく長くというよりは、ポイントのみを絞って書いていただけたらと思います。先ほどのお話だと、最終的にはキーワードは5個から6個ということですが、ここでは、後で集約しますので、5個から6個に必ずしも縛られる必要はありませんので、出てきたもの、思いついたものをどんどん書いていただけたらと思います。

30分経過した時点で、一旦、中間報告として、それぞれのグループの考えたものを発表していただいて、時間が足りないようであれば、それを続けますし、ある程度できているようでしたら、その時点で集約して、A、B合同でまとめていく作業に入りたいと思います。よろしいでしょうか。

では、45分ぐらいまで、今から30分程度なので、6時45分まで一旦行いたいと思いますので、それぞれのグループで思い出すところからになるかと思うんですが、お願いします。

(※2グループに分かれて意見交換)

○萬羽部会長 中間発表でどんなのが出たかというのを、1回ちょっと共有したいと思うので、では、こちらで、北脇委員からお願いしてもいいですか。

○北脇委員 すみません。説明が下手なので、出たことだけ言います。

子どもの居場所という話が出たときに、まち全体で巻き込んでやっていきたいよね。結局、居場所に行く子どもも安心安全であってほしかったりとかするので、生活圈全体が子どもの居場所であるというか、そういうまちづくりをしていきたいよねという話が出てきました。

それで、まち全体を巻き込むみたいな感じですね。例えばなんですけど、一日歩行者天国をやってみるとか、あとは、毎週土曜日、ここが子どもが使っているいいスペースに変

わっているとか、ふだんは入れない場所が入れて遊べるとか、そういうふうにできたらいいねという話が出ました。

あとは、子どものやりたいを大人はサポートしていきたいねという話があって、前回のときに、子どものやりたいの話で、子ども目線と大人目線の話があったんですけど、ここでいくら話しても、大人目線しか出てこないと思うんですね。なので、子ども会議とか、そういうふうに、子どもが自分の気持ちを出せる場所をみたいなので提供して、それで、みんなの意見を聞いて、どうしたいかというのを聞いていきたい、それを反映していくような場所が欲しいよねという話が出ました。子どもの意見を聞いてほしいということです。

子どもが活動の中心になる、自主的になる。大人は支えて、まちも支える。まちの真ん中に子育てを持ってくるような、そんなところができないか。子どもはあまり遠くには行けないので、小学校区に1つぐらい、そういう場所がほしいとの話が出てきました。

あと、子どもの居場所で多様性というのがありまして、お子さんは、常に外遊びで元気に遊べる、居場所で元気に自分のやりたいことをやれる子だけじゃなくて、やっぱり、そういうところに行きたいけど、ちょっと配慮が必要な子たちとかもいるので、そういう多様性というのも大事なキーワードだよねという話が出ました。そんな感じでした。

○萬羽部会長 ありがとうございます。では、Bグループ、お願いします。

○水津職務代理 うちは、もうキーワード出したよねということで、1回安心しているんですよ。表現は置いといて、もう出ているからという話になって、さらに、安全とか、今回、学童のアンケートからいろいろ見たときに、やっぱり大人は圧倒的に安心とか安全とかを求めているよねというようなこととか、あと、要求のところに、学校というワードも結構多くて、だから、そういうのもあるねという話もしたんです。

1つは、学校の放課後の教室だけでなく、学校の施設を使った何か拡充というか、安心して過ごせる場所になったらいいよねということもあるし、でも、学校だけでは、学校に行けない子も当然いるし、学校には行っているけど、学校が安心な場所じゃない子もいっぱいいるわけだから、それ以外の子どもたちがどこかに行けるような場所が必要なんだよねという話もしたし、ただ、そうすると、なかなか、こちらは、割といろいろなことを言っているけど結構現実的で、お金は要るよねという話で、子どもに対する予算が負債扱いになっちゃうのがそもそもどうなのかということで、子どもたち、今、例えば、学校に行けていない子とか、なかなか外に出られない子たちに対してきちんと

アプローチをして、その子が社会人として自立した人になれば、社会に貢献できるわけです。それは資源の発掘になるわけだから、そういう意味で、長い目で見ると、そういう子どもに対する施策というのは全然無駄なことではなくて、投資なんだからということが社会の中に根づいたらいいよねという、ちょっと大きな話をしてしまいました。そのぐらいで、燃え尽きた話をしたので、ちょっと具体的じゃない、ごめんなさい。以上。

○萬羽部会長　では、どうでしょうか。もうちょっと、やっぱりキーワード自体を考えますか。それとも、そちらは、もうできあがったということでしょうか。

○水津職務代理　できているつもりでいるんです。

○萬羽部会長　言いながら、精査はしていないんですけど、大丈夫ですか。

○水津職務代理　細かいことはあまり得意じゃないから。もしあれだったら、合わせながら意見を出し合ったほうが先に進むんじゃない。このままいくと、朝まで討論会に。

○萬羽部会長　分かりました。では、本当は紙に1個ずつ書こうと思ったんですけど、あれだったので、ここに直接書きますか。キーワード、見えていたほうが話しやすくないですか。これを見ればいい、大丈夫ですか。この紙でいいですか。

○水津職務代理　キーワード自体は、もう1回、きちんと1個ずつ、潰してたたいたほうがいいのかと思うので。

○萬羽部会長　考えたいなと思ったんですけど。

○水津職務代理　何から行きますかという。

○萬羽部会長　ここで。

○水津職務代理　そうそう、ここはAは何と言うか。どちらかという、Aグループのほうは、子どもの気持ちとか、ソフト的な内面から出たものをキーワードづけしていると思うので、組合せが。

○萬羽部会長　そうですね。

○水津職務代理　でも、順番は置いといて、例えば、いつでも誰でも行ける場所が欲しいよねというのは、ある意味、どなたも否定はしないことだと思うので。そういうキーワードをつくって、それはどういう場所なのかみたいな、ちょっと乱暴だけど。

○萬羽部会長　でも、何か、ちょっとメモ程度に書いておくべきかな。いつでも誰でもでしたっけ。

○水津職務代理　うん。

○萬羽部会長　Aでは、それプラス、どこでもというのが出ていたんですよ。まち全体でというか、どこでも、場所に制約があって、この人たちはここに行けないとかとならないように、

どこの人でも、どこでもというのも似たような感じでは出てきていました。

○水津職務代理 いつでも誰でも行ける場所と、まち中。まちの中のいろいろなところだって、子どもの居場所だよねという意味ですか。

○萬羽部会長 そうですね、はい。まち全体が安心して、子どもの居場所になるといいねという、子どもの居場所を、Aで結構言っていたのは、本当に概念的なんですけど、子どもの居場所をそもそも探さなきゃいけないということ自体があまりよいことではなくて、別に探さなくても、全てが子どもの居場所になることが最大の理想ではあるよねみたいな感じではありました。ちょっとキーワードとして分けたほうが、もしかしたらいいかもしれないけど。というところはありません。3つ分けましょうか。いつでもと、誰でもと。関連してでも、その次のところでも、ありますか。

○水津職務代理 何か「キーワード、これ、どう？」というのを言ってもらったらいいんですか。

○萬羽部会長 はい。挙げてもらって。

○谷村委員 いつでも誰でも、「でも」ではないというのはどういうものなんですかね。いつでも誰でも使える施設なり、そういうものがあつたとして、逆に言うと、じゃない施設はどういう。入場に制限をかける施設みたいな。誰でもということは。

○萬羽部会長 多分、いつでも出ていたのは、前のときは、予約をあらかじめしていないと入れないとか、登録していないと入れない。

○谷村委員 フルオープン、ずっとオープンになっているよという。

○萬羽部会長 という意味もたしかあつたような気がしたんですけど、違いましたっけ、覚えていること。

○谷村委員 誰でもいうところは、人にどういうフィルターがかかっている……。

○水津職務代理 イメージ的に……。

○谷村委員 この子は駄目で、この子はいいいよというのをなくしたいと。年代、年齢で切つてあるという。年齢全部を対象にするという。

○萬羽部会長 あと、全ての施設が全ての年代をという意味じゃなくて、多分、選択肢がいっぱいあれば、この年代の人だけがどこにも行く場所がないとならないよという意味もありますよね。全ての施設が全部をフルオープンというわけじゃなくて、選ぶときに、選ぶというか、選択肢としては。

○水津職務代理 ここは中高生が行ける場所があるよとか、そういうような意味の誰でもが行ける場所が、どこかにある。

○谷村委員 あなたは行けないよということ……。

○水津職務代理 あと、お金がかかるとか、かからないとか。

安全というのは、結構どこでも言っているじゃない。安全な場所みたいな、その安全の中にいろいろな意味があると思うので。

○萬羽部会長 そうですね。

○水津職務代理 安全とか、安心とか。

○萬羽部会長 安全安心。これに関して、もう少し具体的なキーワードというか、あれば挙げていただけると。

○水津職務代理 子どもの居場所というのは、こういうところだよということの説明だから、いつでもというところで、いつでも行ける場所がなければいけないとか、誰でもというときは、どんな年齢の子も行ける、どんな環境の子も行ける場所があるべきだとか、そういうことよね、書き方としては。

○萬羽部会長 そうですね。

○水津職務代理 安心というと、すごく広がるけど。

○北脇委員 こっちのほうで出たのは、大人もひっそり見守る程度、大人に見守られて遊ぶ安全ではなくて、けがしたときにここに行けばいいとか、事故があったときにここに行けばいいぐらいのひっそりとした安全みたいな、そういう話が出ました。

○水津職務代理 安全の定義はすごく難しい。

○萬羽部会長 難しいですね。

○谷村委員 みんな閾値違うもんね。

○水津職務代理 そうなんだよね。安心といったときの安心が、心の安心のことを言っているんだよね。

○萬羽部会長 そうですね。これとこれって、同じようで違うのかな。

○水津職務代理 違うんだよね。

○鈴木隆行委員 安心が、多分、いろいろな意味を含んでいるんじゃないかと。

○水津職務代理 そうだね。

○鈴木隆行委員 心の安らぎという、そういう場であるということもそうなんだけれども、あそこに行きさえすればいいみたいな、行く場所がないよみたいなものに対して、常によりどころがあるじゃないですけど、そういう意味の安心もあるだろうし。

○古源委員 大人が安心なのか、子ども自身が安心なのかというの違うよね。

○水津職務代理 そうなんだよね。

- 萬羽部会長　　そうですね。
- 谷村委員　　悪い大人は子どもを安心させるのがうまいですから。
- 水津職務代理　ここにいるんだよ、悪い大人が。
- 子育て支援課長　手本が。
- 谷村委員　　こっちでもそんな議論になって、やっぱり安心といたら、何かしらの事業があつて、携わる人がいた場合の顔が知れているというのが、やっぱり条件かなと。携わる人の顔を知るとというのが、何かあつても、あの人が、あの人がというのを、誰か知らない人がいないというのは1つの安心のキーワードかなという。
- 水津職務代理　そうね。やっているある場所が、すごく閉鎖的なところじゃなくて、いろいろなところとつながっている感があることは大事かもしれないね。
- 北協委員　　安全、でも、ちょっと危険ぐらいのほうがいい。
- 谷村委員　　でも、連雀通り、自転車を通れるようにしてほしいですね。あそこ。
- 水津職務代理　安全じゃないよね。確かに、道路、安全じゃないね。
- 鈴木隆行委員　農工大通りの歩道も整備してほしい。通学路なのに。
- 萬羽部会長　　それはそうですね。子どもの居場所だけでなく、みんなの居場所。
- 水津職務代理　その辺は、どこでも安心安全な場所を、やっぱりまちが保障してほしいよね。
- 萬羽部会長　　本当に。これはちょっと関係して。
- 谷村委員　　子どもの居場所で語るべき内容なんですかと。もっと違う場で、当たり前でしょうという。
- 水津職務代理　この間あつた、まじプロで話題になっているのは、公園が子どもの居場所にならないとか、いると通報されたりとか、あと、ボールは一切使用禁止になったりとか、そういう公園課が管理している公園に対して、子育て目線みたいなのって、やっぱり反映しづらいでしょう。
- 子育て支援課長　でも、公園計画か何かの見直しで、子どもワークショップをやって、ルールを検討をしますと。
- 水津職務代理　それは言っていたね。
- 萬羽部会長　　先にルールをつくっちゃった。
- 水津職務代理　ルールをつくる、そういうのはつくる。
- 子育て支援課長　ルールをつくるときに、子どもを含めて一緒に考える。
- 水津職務代理　というふうになったんだね。やっぱり、なかなか、いろいろなルールがある。確かに

公園は子どもだけのものではないから、ある程度のルールは必要だとは思うんだけどね。

○子育て支援課長 子どももいろいろな特性の子が来るから、外枠は要るんだと。

○萬羽部会長 その公園を子どもの自由にとというか、子どもも遊びやすくするためにはどういう理念
というか、どういうキーワードだったら、それに近づけますかね。今のだと、公園のル
ールを……。

○水津職務代理 さっき言っていた、本当に言ったとおりに、公園利用に関して子どもの意見を取り入
れるということをしてくれるんだったらいいけど、ルールを守るためのワークショップ
じゃ意味がないから。そこの履き違えがないようにしていただきたいみたいなのところ。

○子育て支援課長 子どもの意見を引き出すの、大変ですよ。

○萬羽部会長 そうすると、この意見を言うみたいなのもやっぱり、でも、意見を言うというのは、
キーワードとしては、ちょっといまいちかもしれない。もうちょっとキャッチーなほう
がいいと思うんですけど。

○谷村委員 そこは、さっき、うちのチームから出てきた聞き取る場所というものが多分、そんな
のを包括すればいいのかなと。

○萬羽部会長 なるほど。

○水津職務代理 それって、その公園だけに限った話じゃないんでしょう。子どもの意見が常に反映で
きるような場所が欲しいということだよな。

○北脇委員 そうです。例えば、こっちの話で出たのが、子どもが主催するお祭りがいいよねとい
う話をしている、遊パークがやっているミニコはあるけど、あれは市がやっているもの
ではないので。ですよ、たしか。

○萬羽部会長 あと、場所だけに限らず、それも、こっちと同じで、ちゃんと場所があるというのは
もちろんなんですけど、それがいつでも、何かあったときに駆けつけられるようなところ
は必要かなと。

○水津職務代理 でも、キーワードとして、子どもの意見を尊重するとか、子どもが意見を言える
ような何か。

○萬羽部会長 子どもが意見を言えるような。

○水津職務代理 取り入れるとか、聞くとか、そういうものは常に必要ということだよな。

○北脇委員 言えるような、子どものつぶやきが言えるような。それこそ聞き取りにいったほしい
です。

○萬羽部会長 これが前回のだと、谷村委員が考えてくれたのだと、「はなしきけコラ！」ですか。

ちょっと違うか。

○谷村委員 まあ、そうですね。

○水津職務代理 ここでしゃべらせる。

○萬羽部会長 話を聞いてほしい、ちょっと違うか。

○水津職務代理 相談……。

○谷村委員 そうですね。凶暴性が。マイルドだと、そういうこと。

○萬羽部会長 話を聞いてほしいみたいなのは入りますよね。

○谷村委員 あまりイメージが浮かばないんですよね。

○北脇委員 聞きにいつてほしいですね。

○谷村委員 主体的に聞きにいく形。

○北脇委員 そう。だから、学童に入って、そのときに、学童の話じゃないけど、公園の話をして聞くとか、ほかのことを聞くとか。

○谷村委員 聞き取り調査をしにいく。

○北脇委員 だって、何か講座やります、ワークショップやりますと言っても、子どもが来ないじゃないですか。遊んでいるほうが楽しいし、習い事があつたりとか、親が申し込むけど子ども自身は申し込まないとか。

○萬羽部会長 それか、本当の理想はというか、公園のルールに不満を持った子どもが子ども自身で、聞き取られるんじゃないくて、子ども自身で変だなと思ったときに言えるみたいなのが大事な気がします。

○谷村委員 子ども自身が何か、どこか電話番号を、そういう。

○萬羽部会長 そうですね。どういう形態がいいのか分からないんですけど、例えば公園に、あるときルールができて、ボールで遊んじゃいけませんと急に決まったときに、子どもが「何でそうなるんだよ」というのを心にとどめるんじゃないくて、どこかへ一言、何でもかんでも言えばいいってもんじゃないんですけど、でも、そういうのを発信できる、しやすい空気感はあるといいのかなと思って。

○鈴木隆行委員 目安箱みたいな。

○北脇委員 ここに必ず配置してあるとかね。

○萬羽部会長 それすら、どういうふうに伝えたらいいかすら、多分、今、分からないかなという気はします。

○水津職務代理 全然キーワードとは、ずれちゃうんですか。

○萬羽部会長　　どうぞ。

○水津職務代理　子どもよろず相談じゃないけど、それが小学校区ぐらいで、子どもも大人も、子どものことをそこで話し合える場所みたいなのがあったらすごくいいなと思って、例えば、学区の中に公園が幾つあるか、そこが把握していて、そこでトラブルが起きていけば、そこに言えば、近所の人と話してもらえとか。例えば、公園のことだけを言うとするならば。でも、それも1つあるけれども、ほかのことでも、何かいろいろなことがその1つの箇所でも相談できるような感じのまちになったら、子どもにとって、やっぱり公園課に電話するなんてとんでもなくハードルが高い話だから、もうちょっとまちの中でお互いに相談し合えるような土俵が、小学校区ぐらいで、目に見える場所であつたらいいよね。

○萬羽部会長　　そうですね。

○子育て支援課長　オンブズというと、そういうのも含めて聞いたりもする……。

○水津職務代理　　そうだけど、そうだけど。

○子育て支援課長　　程度はあると思う。

○水津職務代理　　そうだけど……。そこに発想至るかな、オンブズ、そこですよって。

○萬羽部会長　　でも、さっき、何か居場所と離れちゃったという話もありましたけど、私自身はあんまり離れていないような気がして、居場所を自分でつくっていくということはとても大事、つくっていくというか、そうですね、自分から動き出すということはやっぱり大事だから、疑問に思ったことを言えるとか相談に行けるというところでは、居場所のことだけじゃなくなっちゃうかもしれないけど、でも、結局、これは居場所づくりに関係するというか、公園のことでもそうだし、公園とかじゃなく、心理的なことだとしても、安心して過ごすためには居場所づくりなのかなという気がしなくもないですが、ずれていきますかね。こういうのじゃないですかね、違いますか。もうちょっと……。

○子育て支援課長　　いや、いいんですよ。

○水津職務代理　　もうちょっと何か場所のほうがいいんですかね。

だから、でも、子どもがオンブズ、もちろんそうなんだけど、むしろ、もう一歩前に、そのところで、すごく悩んでいるような子がいたら、ここ、相談できる場所なんだってとその人が言ってあげると、オンブズへ行く子が出るかもしれないみたいな、ワンクッションが子どもにとって必要なんじゃないかなと思って。

○萬羽部会長　　そうですね。

○谷村委員 うちでも、子どもが希少なキャラクターがあるんですけど、多分、いろいろ困っているんだけど、初めての人に相談というのは、多分無理だと思うんですよね、子どもが。常に携わっている信頼を置ける大人だと思うんです、相談、その窓口じゃなくて。なので、そこら辺をネットワークできればいいかなと思うんですよね。一本化した窓口ではなくて。

○萬羽部会長 そうですね。

○谷村委員 すごいいっぱい、何かふわっとしたことから深刻なことまでというのを、相談員みたいなのを市内1,000人とかいますとか。

軽く相談できる人が、この人なら電話してもいいよみたいな、言わばカンガルーポケットみたいな、あんなレベルでいっぱいいるとって、近所のおじさん、あの人もそうだよといったら、複数というか、いっぱいいたほうがいい。

○水津職務代理 それを、まちのそういうところにつなげてくれるというだけでも全然違ってくると思うんだよね。

○谷村委員 オーガナイズするのは市だと思うんです。

○水津職務代理 そうだよ。

○村上委員 意見自体はあるんですか、子どもは。言いたいことはあるのかな。

○水津職務代理 最近の子はどうなんでしょう。

○萬羽部会長 のみ込んじゃうかも。

○水津職務代理 言い方が分からないのかな。

○北脇委員 言い方が分からないだけ。あと、言っているのかが分からない。大人の顔色を見て。

○萬羽部会長 空気を読んじゃうんですよ、きっと。

○北脇委員 そう。だから、本当、学童は完全に、さっき言った安心している大人がいるというか、いつもその人なので、その人に、楽しいことも、子どもとけんかして嫌だったこととかも全部話してくれるんですよ。そんな感じの場所があって、そこに、いつもの顔の人がいて、その人と仲よくなっているうちに、だんだん、そういうことも話して、その人がもちろん、よろず相談みたいに返してくれればいいんですけど、できないとしても、よろず相談を知っていれば、そこにつなげることができるじゃないですか。そういう感じのワンクッションなのかなと思って聞いていました。

○村上委員 そういう場自体が欲しいという話ですか。それとも、この居場所とか公園の在り方について意見を聞くような体制を取ったほうがいいということなのか。よろず相談みたい

なものが、居場所と近い存在として必要だという話ですか。

○谷村委員 手段か目的かという話なんです、ごめんなさい。

○萬羽部会長 両方、今、多分入っちゃっているのかなと思います。

○谷村委員 もともと手段の話。

○萬羽部会長 私は、キーワードとしては、安心だけだと、さっきの話はすごい広いから、その中で細分化していく中で両方入ってきちゃっているのかなという気はしていたんですけど。

○鈴木隆行委員 心の安寧を得るための相談というのは、やっぱりオンブズでいいんじゃないかな。

○水津職務代理 オンブズがあるよということも教えてもらえる人、場所があればいいということだよ
ね。

○萬羽部会長 つなぐ、場所は今もあるかもしれないんだけど、それをもうちょっと使いやすくなる
というか。

○水津職務代理 そうね。それは広報活動だね。

○萬羽部会長 ほかに大事なキーワードとしては何か。さっきのあれですよ、誰でもの中に入っちゃうのが、多様性とか。

○鈴木隆行委員 いつでもの、予約とか登録ということがあると思うんですけど、時間的な問題とかも
ありますよね。

○萬羽部会長 時間もそうですね。あと、天気とかも出ていたんですよ。

○鈴木隆行委員 そうですね。天気とか、あと、体調、学校は休まなきゃいけないけれども、いられる
場所はあるとか。小さい子だったら病児保育というんですけど。何か状況をいろい
ろ。

○萬羽部会長 確かに。

○鈴木隆行委員 結構いろいろなパターンがありました。それは、いつでもなのか、誰でもなのか、よ
く分からないですけど、どんな人でもという意味で。

○北脇委員 学校には行けないけど、ここには行けるとかも大事ですもんね。

○水津職務代理 その話は出ていたのよ。例えば、民間フリースクールみたいなのがあったとして、例
えば、放課後とかだったら、学校はぎりぎり行っているけど、今、本当は学校が自分の
居場所になっていない子とかが来られたりとかしたら、お互いに、行けているけど、頑
張って行っているけど、行けなかった子とかとのつながりとかもあるし、できたらいい
のにね。そうすると、やっぱり民間フリースクールの拡充とかというの、本当はすご
く必要なんだろうなという話はした。

○萬羽部会長 確かに。キーワードはこうかもしれないけど、具体的なところでそういう文章が入ってくるといいですね。

○水津職務代理 そう。誰でもというのの拾い方が、単純に不登校とか、学校行っている子というだけの意味合いじゃないじゃないですか。今、グレーもいっぱいだし。

○古源委員 1人の子でも、そうですね。元気よく外で遊べる日と、静かでも、誰かがいるところにいたい日と。それは自分で、選べるという、また場所となっちゃうんだけど、やっぱり自分がいてもいい場所を、その日にいたいところがあるという安心感ということも必要なかなと。

○水津職務代理 確かに。ということは、場所がいっぱいないと駄目ということだね。

○萬羽部会長 そうです。どこにでも誰でも来られて。

○谷村委員 もう提言のところで数字を入れちゃうとか。市内、子どもが過ごせる施設1,000か所、相談できる大人1万人とか。

○村上委員 そういう意味じゃ、種類も必要ですね。

○萬羽部会長 種類。

○谷村委員 まずは、数字目標で、ばんばん、よく分からないものをつくっていったって、1,000個達成といったら……。

○水津職務代理 多岐にわたる、多様化、多様性に対応するようなものが必要ということね。

○萬羽部会長 そうですね。確かに、数だけじゃない、数も大事なんだけど、数だけじゃなくて種類もという両方ですね。

○水津職務代理 もうちょっとあるかなと思うんだけど、時間もあれだから、最後に、持続可能と書いたりとか、どっちも持続可能だったり実現可能だったりというところがあって、せっかくいいところをやっているのに、そこのやっていた人が急に具合悪くなっちゃったからなくなっちゃったみたいなのとか、お金がぎりぎりやれなくなっちゃったみたいなのを防ぐためにも、何か持続が可能な整備というか支援というか、そういうのは全体を通して必要なことかなと。短期的なことじゃなくて、あってほしいなとか。

○萬羽部会長 確かに。

○谷村委員 金よこせというやつ。

○水津職務代理 そういうことです。言ってみれば、そういうことです。

○萬羽部会長 金をよこせと。また、数字を書くのかな、幾らとか。

○古源委員 やっぱり施設だったりとか場所というのを、行政のほうから何か提示していただくと

というのはすごく大事なことで、持続可能にしていくためには。やっぱり行政と民間との連携というのが、この事業ではすごく大事だと思うので、連携の仕方とか、行政に条件整備をやっていただくとか、そういうところをきちんと、提言になっていくんだと思うんですけど、それが必要なとは思いますが。

○村上委員 あとは、民間というところに当事者というニュアンスを入れて。

○水津職務代理 当事者グループみたいなものということなんだよね。

○村上委員 逆に、当事者の意見とか希望。

○萬羽部会長 当事者だから分かること。

○村上委員 そうですね、そこは入れていかないと。それが民間、民間が当たって。当事者を重視するというと、財政支援、これが必要だと思うんですけど、それが持続のほうに結びつくのかなと。

○水津職務代理 例えばだけど、小さいグループとかNPO法人とかで、いろいろ子どもの活動をしている人たちというのは、そもそもは当事者だったんだよね。

○村上委員 そういうのが多い、そうですね。

○水津職務代理 そう。だから、そこが継続していけるような支援が必要なのかなと。

○村上委員 そうですね。

○水津職務代理 あと、当事者がどんどん入ってこれるとかね。

○村上委員 そうですね。だから、NPOって、私もよく知らないんですけど、NPOで、ある程度生計を立てている人というのも……。

○水津職務代理 あんまり立っていないよね。立たないから……。

○村上委員 それが立っていないとすると持続可能にならない。

○水津職務代理 そうなのよ。立たないから持続可能性にちゃうのよ。

○村上委員 そこですよ。

○北脇委員 本当は立てていいんですよ。立てていいけど、立たないのが現実。

○水津職務代理 そう。立ちたいんだと思っているけど。

○村上委員 立たせてあげないと持続可能にならないから。

○水津職務代理 実際には立てていないからね。そうなの。いっぱい、いろいろな取組を皆さんやっていらっしゃるんだけど、ほぼ手弁当、熱意と善意とみたいなだけでやっているから、それをもってして、すごいいっぱいやっているみたいにはなれないと思うし、例えば、放課後子ども教室の中にも、いわゆる薄謝でどこまで要求されるのかという問題と

かも知るし、だから、そこら辺のところを、もうちょっと、ここはこういうふうにとか、あと、例えば、こういう取組をしたいんだと思っている人たちに、では、この助成金はどうかと、行政からも教えてもらえるとか、そういうのも、別に、まちに金出せと言っているわけじゃないとか、そうじゃなくても、こういうことが例えばできるんじゃないかとかということが相談できる場所であってほしいなど。その中間はつなぐけどというような感じになれば、すごく。

○谷村委員 コンサルティング業ですか。

○水津職務代理 そうそう。

○谷村委員 一番うさんくさいような、ブローカーが。

○萬羽部会長 そうですね……。

○水津職務代理 イメージ、そうなっちゃうけど、でも、そういう仕組みがないとつくっていけないから、そこは行政の人にもちょっとお勉強していただいて、こういう活動をしたら、こういうお金がもらえるんじゃないかとか、やっぱり一般の人ではなかなか分からないものとかを、知恵を支援していく。お金を出すだけでなくて。

○北脇委員 市も、そういう予算を取ってきてほしいですね。

○水津職務代理 そういうのもあるし。

○北脇委員 普通のボランティア団体とかだと、そういう予算は取れなかったりするけど。

○水津職務代理 ボランティアだからこそ取れるものもあることもあるから、そういうのをうまく活用できたりとか。

○萬羽部会長 何となくキーワードは出たのかしら。囲んだのがキーワードになるのかなと思いつつ、一方で、青いのと赤いのは、ちょっとフェーズが違うとか、お互いに関わり合っているような気がして。でもないですかね。そう思っているのは私だけですかね。どういうふうに、キーワードとして羅列するのに並列でいいのかみたいな話。

○水津職務代理 いつでも誰でも、どこでもはちょっと分からないんだけど、と安全とかというものがあつたとして、あと、安心できる場所であるとか、子どもの意見を聞いてもらえる場所だったり、持続可能である場所であるとか、あと最終的に、どこでもとなると、まち全体で子どもの居場所を考えるまちになるべきとか。そういうふうに、多分なってくるのかなと。

○萬羽部会長 そうですね。

○谷村委員 すごいですね。抱え込みましたね。

○萬羽部会長　むしろ、そうか。ここがまず……。

○水津職務代理　だって、ほら、あと5分しかないから。

○萬羽部会長　そう。あと5分しかない。ここがまず1つ。

○水津職務代理　場所の定義として、いっぱい、いろいろないつでも行ける場所があるとか、あと、誰でも行ける場所が、誰にでもその場所があるとか、あと、そこが安全であるとかというものの最低の場所としてのキーワードであって、その場所というか、中身、ソフト的なことを考えたときに、それが安心の場所であったり、子どもの意見がちゃんと取り入れられる場所であったり、持続可能な場所であったりというふうになってくるのかなと、キーワードだけを見ると、そういうふう思うんだけど。

○子育て支援課長　リード文のところに、いつでも、誰でも、どこでも子どもが自分で選んでできる、好きな過ごし方ができるまちづくりをしていって、その下の項目に、安全安心と、子どもの意見を反映するまちと、持続可能で実現可能なというところが例えばポイントを3つ表すとして、その3つのキーワードに対して補助的な説明を加えていくというのはどうですか。

○水津職務代理　すごい整理したね。

○萬羽部会長　でも、私はそのほうがすっきりするかなという気がして、これは全部、こっちにかかってきているような気がするので、ちょっと段階を変えてというか、確かに、こっちがリード文で、キーワードとしては確かに。

○水津職務代理　具体的なこと。

○萬羽部会長　ということで、今日はどうでしょうか。まだ、もし、ちょっと今の話で言い足りないこと。

○水津職務代理　今、強引にまとめちゃったから、今、多分、みんな、「うん？」と思っているかもしれないので。

○萬羽部会長　そうですね。もうちょっと、また。

○水津職務代理　それをちょっと、こんな形だったよねという、今日の話をまとめていただいたものを見て、さらに、やっぱり、でも、こう思ったみたいなのをもう1回皆さんに出してもらったりとかして、また次というふうになったらどうですかね。

○萬羽部会長　はい、そうでいいと思います。次は、なので、キーワードは、何となく、一旦、今日はこれという感じで、これは別に決定ではなくて、一旦これで。

○水津職務代理　それをまた皆さんで。

○萬羽部会長 はい、そうです。もう1回考えて。

○水津職務代理 自宅で書いてきていただいて、もうちょっとブラッシュアップ。

○萬羽部会長 もちろん、このままいくかもしれないんですけど、まだ、別に、これが変えちゃいけないわけではないので。

○水津職務代理 そうそう。これ、でも、やっぱり違うんじゃないかというのは、多分、もうちょっとよく考えたら出てくるかもしれないので。

○萬羽部会長 出てくるかもしれないというあれですね。あと、多分、具体的な文章を、この続きとして書いていくので、その辺りの提言というか、そこに向けて、もう少し肉づけ、肉づけとは違いますか、次回は。

○村上委員 いつでも誰でもどこでもの定義は、一応終わったという認識なんですか。

○水津職務代理 ううん。そういうことが必要だということを文章の中に入れ込もうという話だけしか、まだ決まっていないので。

○萬羽部会長 まだ、はい。

○村上委員 ちょっと掘り下げてほしいところがあるので。

○萬羽部会長 そうですね。これを基にもう1回次のときに、考え直すというわけじゃないんですが、ちょっと、もう1回考えてみるということでもいいですね、これを基に。

○村上委員 掘り下げというか、強調してほしいところを入れ込んでほしいとかというのがちょっとあるので。

○水津職務代理 もしよければ、今。

○村上委員 誰でもというところで、さっき、ちょっと種類という話をしたんですけど、ちょっとイメージが、子どもが元気に明るくはつらつと活動するみたいなイメージを私はちょっと取るんだけど、その一方で、やっぱりいいことにされているレベルの子どもたちというのは結構な割合でいて、そこにちょっと、自ら行けないとか、ちょっと手を差し伸べてあげるみたいなところを誰でもというところに入れてほしいなという。

○水津職務代理 それは全くそうだと思うんですね。例えば、外遊びが好きな子もいるし、そうじゃない子もいるし、学校にも行きづらい子もいるし、自分から外に出るのはちょっとという子も当然いる。いろいろな子どもたちに対して、でも、その子なりの居場所になれるような場所が必要だよという話ですね。

○村上委員 自信をなくしちゃっているから、ちょっと外に出にくいけど、やっぱり、そこも行ける。あとは、これもあれですけど、親がある程度フォローしてあげている不登校になっ

ている子どもも、意外と親がほったらかしている不登校の子どももいたりとか、余計かわいそうなことになるので、そういうのを含めて、手を差し伸べる。

○萬羽部会長 確かに、そうですね。とても大事なことだし、子どもだけでは、やっぱり選べないとか、動けない子もいると思うので、そこも含めた誰でもですよ。自分だけで選べる子ばかりじゃなくて、そうじゃない子も。

○水津職務代理 そうなんだよね。親の意識が高い人と、そうでもない人が結構いるから、それでも、やっぱりみんなにチャンスがあるという。

○萬羽部会長 そうですね。

○水津職務代理 誰でも、広がるね。

○萬羽部会長 次は、ここをちょっと、これをキーワードに広げるというか、深掘りするとか、していけたらと思います。ということで、今日はここまでにして、また皆さん、少し頭の片隅に置いて、深く掘り下げて考えてみていただければと思います。では、これで大体時間になったということで。

それでは、これでほぼ時間となりましたので、次第の(2)は以上となります。

本日の審議事項は以上です。ここまでなんですが、ほかに何かありますか。事務局からとか、委員の皆様からとか、いかがでしょうか。次回の予定を。

○子育て支援係長 次回日程に関しては、4月21日の予定ですが、本日のお話を踏まえまして、軽くまとめたものを近日中にお送りしたほうがよろしいですかね。

○萬羽部会長 あと、来週の会議でも、少し報告するんですよ。

○子育て支援係長 3月24日に、子ども・子育て会議、本体会議がありますが、そこでは部会の中間報告をさせていただきます。本日の内容までを含めた形で、部会長と事務局のほうから報告を行う予定です。その際、部会員の方からも、所感とか御意見はいかがですかという感じで会長から振られると思うので、忌憚なくご発言いただければと思います。

○子育て支援課長 すみません。今、1つにまとめる作業まで今日書いていたんですけど、次回の会議をコロナの状況にもよると思うんですが、今回のようにリアルでやるほうが、ぜひいいと思うか、オンラインでも支障ないかなと、感覚的にはどうですか。場合によってはオンラインでもいいですか。やっぱり会って話したほうがいいなと思いますか。

○北脇委員 リアルがいいです。

○子育て支援課長 そうなんですよ、できれば。

○水津職務代理 本当は会って話したい。

- 北脇委員 できればリアルがいいです。
- 水津職務代理 でも、状況が許さなければ仕方がない。
- 子育て支援課長 リアルで仮にやるのが難しかった場合、延期にするか、オンラインでやるかは、
どっちがいいですか。
- 水津職務代理 ここまで来たから、オンラインでもできなくはないと。
- 子育て支援課長 第一選択としてはリアルを模索する。どうしても難しい状況であれば、オンライン
もやむなしということでもいいですかね。
- 萬羽部会長 リアルのときも、今回ほど分かれなくても、もうみんなで話し合えるので、ディス
タンスを保ってできなくはないかなという気はします。
- 谷村委員 できる、できないの閾値って……。
- 萬羽部会長 やれと言われたらやりますみたいな感じもなくはないんですけど。
- 谷村委員 緊急何とか宣言下中じゃないですか。振り切ってやったんじゃないですか。
- 萬羽部会長 そうですね。
- 谷村委員 次、どのフェーズが待っているのかなと思って。
- 子育て支援課長 ですので、今、8時で終わらなきゃいけないというのが、庁内であるんですよ。業
務自体が、よほど火急のものでない限りは。
- 谷村委員 それはなんで。
- 子育て支援課長 緊急事態のあれの。
- 谷村委員 時間制限したほうが余計密になるんじゃないですか。ばらけて、夜中も働けるなら働
かせたほうがいい。不思議なことやっているなどと思って。
- 子育て支援課長 そういうあれがあるので、もし、今、解除される方向ですけど、それがまた再宣言
とかになったときに、やっぱり学校が閉まってしまうような事態になった場合は、皆さ
ん、子どもに関わる方もたくさんいるので、集めるということではできなくなります。気
をつけて過ごしてください。
- 萬羽部会長 分かりました。
- 水津職務代理 行政判断で。
- 萬羽部会長 難しい場合は、オンラインでも十分できるかなと思います。
- 子育て支援課長 分かりました。では、そのつもりで用意します。
- 萬羽部会長 では、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。